

病害虫防除技術情報第16号

平成 26 年 10 月 30 日
三重県病害虫防除所

**イチゴのハダニ類が増加しています。
発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください！**

1. 対象作物：イチゴ
2. 病害虫名：ハダニ類
3. 発生状況：やや多

- (1) 10月上旬の巡回調査(県内 11 圃場)では、寄生株率 10.5%(平年 6.5%)、発生程度 3.0(平年 2.7)と平年より多くなっています。一般圃場においては、発生量は平年よりやや多い状況です。
- (2) 寄生株率は例年 10 月以降高くなる傾向にあります(図)。ハダニ類が多発した 2013 年には、10 月上旬に高温条件であったため発生が増加し、その後も多発傾向となる圃場が多く見られました。
- (3) 1 か月予報(10 月 23 日・名古屋地方気象台発表)によると、平年と同様に晴れの日が多く気温は高い予想であり、ハダニ類の発生に好適な条件が続くと考えられるため、注意が必要です。

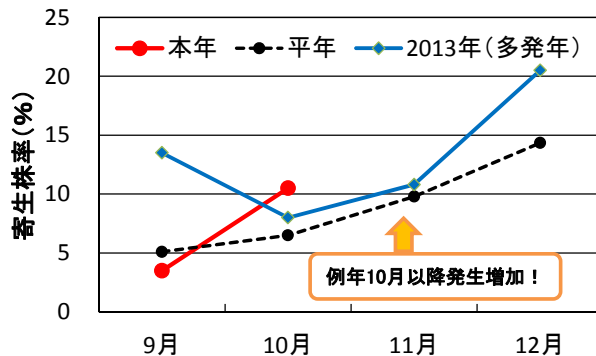


図. 巡回調査におけるハダニ類の寄生株率

※各圃場 50 株調査。

※平年は過去 10 年間の平均値。

表 イチゴのナミハダニに対する薬剤感受性検定試験結果
(三重県農業研究所)

成分名	商品名	薬剤の分類 ^{※1}	検定結果 ^{※2}
ピフェナゼート水和剤	マイトコーネフロアブル	その他	◎
アセキノシル水和剤 ^{※3}	カネマイトフロアブル	虫20B	◎
シフルメトフェン水和剤	ダニサラパフロアブル	虫25	△
シエノピラフェン水和剤	スターマイトフロアブル	虫25	△

※1: 平成26年版三重県病害虫防除の手引き参照。

※2: 雌成虫の補正死亡率が85%以上の検定事例数の割合(%)を算出し、その割合が75%以上:◎、50%以上75%未満:○、25%以上50%未満:△、25%未満:×、とした。

※3: アセキノシル水和剤は薬害(葉裏の変色)に注意する。

4. 防除上の注意事項

- (1) 現在発生が少ない場合でも、多発すると防除が難しくなります。圃場全体をよく観察し、発生密度の低いうちに薬剤散布を行ってください。
- (2) 薬剤散布前に下葉を整理し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。
- (3) ハダニ類は薬剤抵抗性が発達しやすく、同一系統薬剤の連用により薬剤感受性が低下する恐れがあります。県内においても、薬剤に対して感受性が低下した個体群が確認されています(表)。
- (4) 薬剤の防除効果が低い場合は、ダニ剤に対して感受性が低下していることが考えられるので、気門封鎖剤や天敵(カブリダニ類)を活用してください。
- (5) ハダニ類の密度が高い状況で天敵を導入する場合は、薬剤防除(天敵に影響が小さく、感受性低下が問題とならない剤)で一旦ハダニ類の密度を下げた後で導入してください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。